

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	1	学校名	下田高等学校 定時制	校長名	鈴木 孝明
------	---	-----	------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

賀茂地域における高校教育の伝統的拠点校として、知・徳・体の人間教育と地域連携による課題解決型学習を通して、将来の日本や地域を支え、導いていく人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
<p>(1) 入学時点で自分が課題としていたことを克服できる力を持つ人を育成します。</p> <p>(2) 自己管理能力、他者を思いやる気持ち、協調性・協同性を身に付けた人を育成します。</p> <p>(3) 社会に貢献する意欲を持ち、将来の自己の在り方を見据えて進路実現を果たせる人を育成します。</p>	<p>(1) 基礎・基本を重視しつつ、発展的な学習にも対応できるよう、個別最適な学習の充実を図ります。</p> <p>(2) 体験活動や協同学習等を通して達成感や成功体験を積むことで、自己肯定感・自己有用感を高めます。</p> <p>(3) 規範意識や人権意識を身に付けることで、社会性や公共心、自他を尊重できる心を養います。</p>	<p>(1) 「心機一転、定時制で頑張り抜きたい」という気持ちを持って、学び直しに取り組める人を求めます。</p> <p>(2) 定時制で学ぶ者同士で助け合い、励まし合う中で「自分を高めたい」という意欲を持つ人を求めます。</p> <p>(3) 自らの課題を克服するために、真剣に自分と向き合う覚悟がある人を求めます。</p>

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア すべてのに優先する安心安全な学校づくり

- (ア) 個人情報管理及び交通安全対策、事故対応の徹底
- (イ) いじめの防止に向けた組織的対応
- (ウ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識の向上
- (エ) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上

イ 自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実

- (ア) 積極的な挨拶の励行
- (イ) 基礎的な生活習慣の確立
- (ウ) 自己肯定感・自己有用感の向上

ウ 多様な生徒に対応した授業の展開

- (ア) 基礎学力の定着
- (イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践
- (ウ) 三修制への積極的な取り組み
- (エ) 心理的安全性に配慮した授業実践
- (オ) 図書環境の充実と図書館の利用促進

エ 積極的な地域貢献・活性化のための開かれた学校

- (ア) 地域防災への積極的な参加と地域活性化への協力
- (イ) 教育活動の積極的広報

オ 個に応じた丁寧な進路指導

- (ア) 計画的なキャリア教育の展開
- (イ) 地元企業等への積極的なアピール及び連携

カ 学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進

- (ア) 教員育成指標に則した研修充実と組織力を高める研修
- (イ) 特別支援教育・人権教育の推進

キ 働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築

- (ア) 職員の積極的な休暇取得の促進
- (イ) 職場環境の充実

ク 信頼される学校づくりの推進

- (ア) 事案に応じた計画的な準備と経費の執行
- (イ) 総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立

ケ 本校の特色を生かしたキャンパス制づくり

- (ア) 昼間定時制への改編に向けた準備の推進
- (イ) ICTを活用した学校間連携の検討

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	すべてに優先する安心安全な学校づくり	(ア) 個人情報管理及び交通安全対策、事故対応の徹底	生徒の個人情報等を含むデータの情報漏洩等のトラブルを0にする。	全職員
			交通事故等を0にする。グッドマナー講習会を通して、生徒の交通安全意識の向上を図るとともに、講習会満足度4段階評価平均3以上にする。	生徒

様式第1号

		(イ) いじめの防止に向けた組織的対応	いじめアンケートを各学期で実施し、いじめの認知をためらわないとともに、重大事態の発生件数を0にする。	生徒
			年間3回ケース会議等により教職員間の情報共有を行うことで重大事故を0にする。	保健
		(ウ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識の向上	地震災害を想定した防災訓練を計画的に実施する。地域の組織による防災意識を高める講座を行う。	総務
		(エ) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	コンプライアンス通信や関連動画等を活用し、教職員の意識向上を図り、不祥事件数0にする。	全職員
イ	自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実	(7) 積極的な挨拶の励行	生徒会を中心に挨拶運動を年間5回実施し、自ら挨拶のできる生徒の割合を90%以上にする。	生徒 全職員
		(イ) 基礎的な生活習慣の確立	個別指導の徹底と日々の呼びかけにより、年間出席率80%以上を達成する。 1か月に1度生活習慣チェックの実施と保健だよりの発行を行い、生徒の自己管理に対する意識向上を図る。	教務 保健 HR担任
		(ウ) 自己肯定感・自己有用感の向上	生徒個々の状況を理解し、部活動加入率35%以上に達成する。	生徒
			生徒会活動を通して主体的に活動できる生徒60%以上を達成する。	生徒
ウ	多様な生徒に対応した授業の展開	(7) 基礎学力の定着	基礎力の向上と定着を図り、基礎力定着テストで全体平均70点以上を達成する。また、不合格者に対しては、再試験等を通して合格点がとれるような指導を行う。	教務
		(イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	教員の授業力向上を図り、生徒アンケートで授業満足度(4段階評価)に「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が80%以上にする。	教務 全教員
		(ウ) 三修制への積極的な取り組み	年間計画に沿ってスクーリングは100%実施し、テストは1月上旬までに最終回のテストを受験する。	教務
		(エ) 心理的安全性に配慮した授業実践	授業アンケートの「質問しやすい雰囲気」で授業に取り組むことができる」、「授業中での発言のしやすさが確保されている」という項目で、「満足している」・「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が75%以上にする。	全職員

様式第1号

		(ウ) 図書環境の充実と図書館の利用促進	あたたかみコーナーの図書を整備し、50%以上の生徒が利用することを旨とする。また各学期で図書室を1回以上は利用する。	全職員
エ	積極的な地域貢献・活性化のための開かれた学校	(ア) 地域防災への積極的な参加と地域活性化への協力	地域の防災機関と連携し、防災講座を計画・実施して、防災知識と意識を高め、災害時に地域社会に貢献できるようにする。	総務
		(イ) 教育活動の積極的広報	Xを1週間に1回以上更新し、定時制の教育活動についてアピールする。 賀茂地区全ての中学校の学校説明会や公開授業週間の機会を利用して、教育活動を広く周知する。	管理職 全職員
オ	個に応じた丁寧な進路指導	(ア) 計画的なキャリア教育の展開	進路クラスルームや求人票の公開方法など生徒・教員が見やすい環境を整え、情報の共有を行う。	進路
			進路研修等の学校行事を通して、生徒一人ひとりの希望や適性に合った進路指導に努め、年間3回以上二者面談を実施する。	HR担任
		(イ) 地元企業等への積極的なアピール及び連携	進路研修や社会人講話などを通して、在学中から生徒の就労への意識を高める中で、卒業予定者の進路決定率が100%になるように指導する。また、法人会、振興会と連携し、社会人講話等の機会を設け、生徒の就労支援の充実につなげる。 保育実習や進路研修において外部人材の講話を活用し、主体的に進路について考えるよう指導する。	進路 HR担任
カ	学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	(ア) 教員育成指標に則した研修充実と組織力を高める研修	年間を通し、各種研修会、講演会を3回実施し、教職員の資質能力の向上を図る。また、定期訪問を活用し、特別支援教育の視点からの生徒指導について理解を深める。	研修
		(イ) 特別支援教育・人権教育の推進	特別支援教育・人権教育の研修に、できるだけ多くの教職員が参加し、全職員で情報共有を図る。	全職員
キ	働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	(ア) 職員の積極的な休暇取得の促進	計画的に休暇を取得し、定時退勤日を設けて心身のリフレッシュを図る。	管理職
		(イ) 職場環境の充実	働きやすい環境を整備し、職員の安全と衛生に配慮する。	管理職

様式第 1 号

ク	信頼される学校づくりの促進	(ア) 事案に応じた計画的な準備と経費の執行を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案実践 3 件以上 ・内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス 0 件 ・複数年の課題解消 1 件以上 	事務
		(イ) 総務事務の集約化に伴う校務運営参画の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会計事務処理等の事務室への移行 ・講師依頼等の業務の事務室への移行 	事務
ケ	本校の特色を生かしたキャンパス制づくり	(ア) 昼間定時制への改編に向けた準備の推進	令和 10 年度に向けての準備の推進と各準備委員会へ積極的に参加する。	管理職 全職員
		(イ) ICT を活用した学校間連携の検討	「行きたい学校づくり」推進事業 (ICT 活用) における学校間連携の研究に協力する。	管理職